茅ヶ崎市博物館
海と音楽の近代史～「湘南サウンド」前夜～

開催期間：2024 年 7 月 20 日（土）～2024 年 10 月 14 日（月・祝）

【企画展の内容・目的】

■相模湾に臨む茅ヶ崎市は「海に親しむ」素地のある都市である。湘南や茅ヶ崎における海水浴やサーフィンの歴史的な位置づけ、あるいはまた、いわゆる「湘南サウンド」の前史をたどる展示を行うことで、日常的に海に近い環境にある観覧者層に対しては改めて「海を知る」機会を提供し、海に馴染みが薄い観覧者層に対しては「海に親しむ」契機を提供することを目指す。

■関連する講演会・ワークショップをとおして、より深く湘南や茅ヶ崎をめぐる海の文化を知る手がかりを提供し、幅広い意味での「海の学び」の入口としてもらえることを目指す。

■当館の「茅ヶ崎における海の文化の学びの場」としての機能の拡充を目指す。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

1．企画展示の内容

■開催期間：2024 年 7 月 20 日（土）～2024 年 10 月 14 日（月・祝）

■開催場所：茅ヶ崎市博物館 企画展示室・基本展示室

■入場者数：9,897 人

茅ヶ崎市博物館　外観

特別展会場　入口

第１章「“海”の近代史 ～波乗り文化の黎明～」では、近代日本における海水浴の始まりを牽引した松本順の関係資料や錦絵（大磯町郷土資料館所蔵）のほか、明治時代後期の海水浴着の裁縫雛形や復元（東京家政大学博物館所蔵）、1920 年代のハワイで製作された国内最古級のサーフボードの実物（茅ヶ崎館所蔵）などを展示し、現代と約 100 年前の海辺・海水浴場の様子の相違点や連続性について気づくための機会を提供した。

松本順の『海水浴法概説』などの実物資料をとおして海水浴が当初は医療行為としての側面をもっていたことや、明治時代後期の海水浴着（復元）のうち女性用のものはワンピース型であるが、東京家政大学博物館所蔵の実物資料に加えて、平塚らいてうの自伝に、彼女が女学生時代に葉山で海水浴をした際には白キャラコのワンピースのような水着を着たとする記述のあること、さらには、茅ヶ崎海岸で実際にワンピース型の海水浴着を着ている女性の古写真などをあわせて展示・紹介することで、明治期から大正期にかけての海水浴と、現代の海水浴との差異に気づいてもらえる構成とした。本章では、歴史的な変化を相対的に感じにくい海辺の文化について、歴史的変遷を認識できるような内容とすることを目指した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

　そのほか、第１章では、戦前期の海水浴場で用いられたテント（大磯町郷土資料館所蔵）について、茅ヶ崎海岸で同様のテントを写した絵葉書とともに展示し、当時の海水浴場への具体的なイメージの喚起を促した。当該テントについて、もともと別荘族の所有物であり、ふだんは海の家（当時の言葉では「海水茶屋」など）に預けておき、所有者が海へ遊びに行く際には事前に連絡して茶屋のほうで設置しておいてくれるものであったという、借用に際し大磯町郷土資料館学芸員より示教を得た内容をキャプションに加えることで、当時海水浴を楽しんだ社会的階層について具体的なイメージをもってもらえることを目指した。

　さらに、第１章の末尾では、昭和２年（1927）の茅ヶ崎海水浴場に、当時の新聞（『横浜貿易新報』同年７月 14 日記事）において「布哇式波乗板」（同年６月 30 日記事では「波平板」）と呼ばれた日本最古級のサーフボードが海水浴場の目玉として導入されていたことを、市内に現存する当時のサーフボードの実物に加えて、同時期のハワイで日本人向けに発行されていた観光パンフレットなども展示することで、日本最古級のサーフボードが輸入された時期の日布関係の一端も紹介し、茅ヶ崎におけるサーフィン前史についてクローズアップした。市内の日本最古級のサーフボードについては、現代のそれに比べて大きく、フィンがいまだなく転回できないなどの多くの相違点があり、実物を展示することでサーフボードの進化について認識してもらえるようにした。また、サーフィン文化が根づいていない戦前期の日本の海水浴場においてサーフボードが見世物的に導入された時代的背景として、明治末頃以降の海水浴場がテーマパーク化していたことを紹介し、茅ヶ崎海水浴場を飛ぶグライダーの古写真も展示することで、その時代的要請も認識してもらえることを目指した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

第２章「“音楽”の近代史 ～「湘南サウンド」前夜 アラカルト～」では、加山雄三氏などに代表される、いわゆる「湘南サウンド」登場以前における、茅ヶ崎と近代の音楽・芸能との関わりについて、おもに人物と具体的な場所との関わりをとおして紹介した。

明治 30 年代半ば、茅ヶ崎に本格的な近代化の波が押し寄せた頃に転居してきた川上音二郎と添田唖蝉坊、また、昭和初期に茅ヶ崎へ居住した山田耕筰や、両親の家を茅ヶ崎に買い、茅ヶ崎市歌を作曲した中村八大、茅ヶ崎出身の加山雄三氏などについて、各人物の自筆の書簡、楽譜、写真などをとおして紹介し、「湘南サウンド」以前の茅ヶ崎の音楽史的ルーツの奥深さについての理解を促した。「湘南サウンド」登場以前の段階においても、茅ヶ崎には芸能や音楽とのゆかりの深さが認められるが、古い段階においてはいまだ海と音楽は結びついていなかった。その両者が結びつく「前史」についての理解を深められるような構成とした。

【来館者の声】

◯回答内容Ａ
- 茅ヶ崎の“起源”から“音楽”へのつながりを感じられる構成が自然でした。

◯回答内容Ｂ
- 海から文化が始まっている。

◯回答内容Ｃ
- 海水浴自体が病気療養のための行為であったことについて学んだ。

◯回答内容Ｄ
- 昔から海で楽しむ人がいて、海には人があつまるパワーがあると感じました。

◯回答内容Ｅ
- 茅ヶ崎にとって海は大切なんだなと思った。

◯回答内容Ｆ
- やはり「海」が歴史に与える影響が大きいことが改めてわかりました。

◯回答内容Ｇ
- 自然の恵みや恐ろしさを直に見ることができる海に、もっと目を向ける機会があれば、日頃のくらしの見直しをしようという気持ちになるだろうと思いました。芸術をも育む海は偉大ですね。

◯回答内容Ｈ
- 茅ヶ崎と海の関係と自分の生まれる前の海と人との関わりを学びました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

2．関連事業の内容

■関連講演会

【開催日時】（1）2024年7月20日（土）14：00 ～ 16：00
（2）2024年8月10日（土）14：00 ～ 16：00
（3）2024年8月31日（土）14：00 ～ 16：00
【開催場所】茅ヶ崎市博物館　市民交流スペース
【参加者数】（1）26名　（2）23名　（3）28名
（1）、（2）、（3）合計77名
【実施内容・目的】

● 関連講演会では、まず、（1）において、海辺の風景がどのように変化したのかを重点的に学んでもらうことで、海辺の歴史に関する具体的なイメージを抱いてもらうこと、次に、（2）において、湘南のブランドイメージの形成に寄与したポップ・カルチャーについて、音楽にとどまらず、幅広いメディアを取り上げ、そこに不可分の存在として海のイメージが介在していることを理解してもらうこと、最後に、（3）において、加山雄三氏以降の湘南サウンドについて、その幅広さとJ-POPに果たした役割の大きさについて学んでもらうとともに、海辺に近い環境をバックボーンにかたちづくられる音楽を実感してもらうことを目指した。

（1）「近現代における湘南の地域社会の姿―海水浴場・別荘地を中心に―」では、講師の本宮一男氏（横浜市立大学名誉教授）により、近代の湘南地域をテーマに、近代化の初期における海水浴の始まり、別荘地・療養地としての発展をとおして、「モダンで優雅な世界」としての湘南イメージが形成されたこと、その後、「庶民的世界」が拡大し、湘南が身近な存在ともなったことで、両義性が生じたことが説明された。本講演会により、日本の近代化のなかでの湘南のイメージの変化が明確化し海辺の景観の歴史的変遷に対する理解が促された。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

（2）「「湘南」の誕生」では、講師の、「『湘南』の誕生―音楽とポップ・カルチャーが果たした役割―」の著者である増淵敏之氏（法政大学大学院教授）により、湘南を題材としたさまざまなポップ・カルチャーが紹介され、「湘南」はコンテンツが創り出したイメージであると考えられること、数々の自治体がイメージアップやブランド化に躍起になっているなかで、「湘南」は長期にわたって成功していることなどが示された。本講演会をとおして、数多くのコンテンツによって海辺のイメージを含む湘南イメージが増強されてきた状況に対する理解が促された。

（3）「宮治淳一×森川卓夫スペシャル対談」では、サザンオールスターズのボーカル・桑田佳祐氏と同級生であり、同バンドの名づけ親として知られる音楽プロデューサー・ラジオ DJ の宮治淳一氏と、昭和音楽大学の森川卓夫氏の２名を講師に招き、かつて両氏が同じレコード会社に勤めていた経験なども踏まえて、湘南サウンドの始まりから広がりについてのスペシャル対談として実施した。

いわゆる「湘南サウンド」は、加山雄三氏以降、加瀬邦彦やブレッド＆バター、サザンオールスターズなど、いずれも茅ヶ崎にゆかりの深い人びとによって形成されてきた経過などが説明され、海辺に近い環境をバックボーンにかたちづくられる音楽と茅ヶ崎という土地をめぐる文化的環境についての理解が促された。

【来館者の声】

◯回答内容Ａ
- 昔から変わらぬ海と人のつながりを感じました。海への敬意が一層深まりました。

◯回答内容Ｂ
- 海は茅ヶ崎にとって大きな財産だと思った。

◯回答内容Ｃ
- 海はいろいろな文化の源である。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■学芸員によるギャラリートーク

【開催日時】2024 年８月 24 日（土）、９月 22 日（日・祝）
各日 11：00 ～／14：00～（各回約 30 分）
【開催場所】茅ヶ崎市博物館　企画展示室・基本展示室
【参加者数】10 名／８名　計 18 名
【実施内容・目的】

●湘南や茅ヶ崎における海水浴やサーフィンの歩み、海にまつわる音楽の歴史についての展示に関連し、展示の各章ごとに、キャプションでは説明し切れない事項を中心により深めた内容を紹介しつつ、内容をわかりやすく解説する。特に、近代以降における湘南の海をめぐる文化については、海水浴・サーフィンの歴史と音楽史の歩みを相互にリンクさせつつ、体系的・通時代的に理解しやすい内容とするとともに、展示に登場する人物の人柄についても紹介する。

第一章「“海”の近代史 ～波乗り文化の黎明～」では、大磯海水浴場を開設した松本順、明治時代後期の海水浴着については平塚らいてうの自伝に彼女の女学生時代に同様のワンピース型の水着を着て泳いでいたという記述のあること、また、昭和初期、国内最古級のサーフボードが導入された経過など、具体的なエピソードを交えて展示内容を解説することで、茅ヶ崎海辺の近代化について身近に感じてもらえることを目指した。

第二章「“音楽”の近代史 ～「湘南サウンド」前夜 アラカルト～」では、明治後期に茅ヶ崎へ居住した添田唖蝉坊・川上音二郎、昭和初期に茅ヶ崎に居住した山田耕筰、そのほか茅ヶ崎に両親のための家を買い、「茅ヶ崎市歌」も制作した中村八大などの、芸能・音楽に関わった茅ヶ崎ゆかりの人びとについて、茅ヶ崎での居住地、人間関係、エピソードなど人間味や親近感を感じられる事項を中心に解説することで、茅ヶ崎における芸能・音楽の近代史、加山雄三氏に始まるいわゆる「湘南サウンド」の前史について身近に感じてもらえることを目指した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【来館者の声】

（関連講演会続き）
◯回答内容Ｄ
・大切な観光資源でもある海の自然を大切にしていかなくてはいけないと感じました。
◯回答内容Ｅ
・「海」あっての茅ヶ崎と音楽。

（以下、ギャラリートーク）
◯回答内容Ａ
・むかしの人の海の使い方が今と同じようなものもあればちがっているものもあり興味深かったです。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■子どもワークショップ「樹脂標本づくり」

【開催日時】2024 年８月 11 日（日・祝）
（1）10：00 ～ 12：00、（2）14：00～16：00
【開催場所】茅ヶ崎市博物館　市民交流スペース
【参加者数】18 名
【実施内容・目的】

●茅ヶ崎の海岸に行くと、様々な生きものが打ち上げられている。職員が海岸で採取した貝殻などで、紫外線硬化樹脂を用いた直径 3cm 程度の樹脂封入標本を作製し、実物の標本に触れてもらいながら、海の生きものの魅力を感じてもらう。

●市外からの参加者も集まるように広報し、身近に海がなく普段から海に行くことのできない子供たちにも海の生きものに触れてもらい、海への親近感を持ってもらう。

茅ヶ崎の海岸の写真や展示室の標本から、茅ヶ崎の海で見られる貝類や魚類を広く紹介し、海の生きものの魅力について知ってもらった。相模湾へと流れる相模川、その支川である駒寄川は博物館の側を流れている。博物館と川を経て海へのつながりを、展示資料を通して紹介し、海を取り巻く多彩な環境を紹介した。

茅ヶ崎の海岸で採取した貝殻など参加者自身に触れてもらい、海の生きものを体感してもらった。様々な形態、色、大きさの貝殻などを観察、比較してもらいながら標本を作製してもらうことで、海の生きものの多様性や魅力について実感してもらい、海への関心を促した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【来館者の声】

◯回答内容Ａ
・海の場所によって貝などいろいろなものが流れてくるということを強く感じました。
◯回答内容Ｂ
・海は弱肉強食だなたって思いました。
◯回答内容Ｃ
・海に関するワークショップがあれば参加したいです。

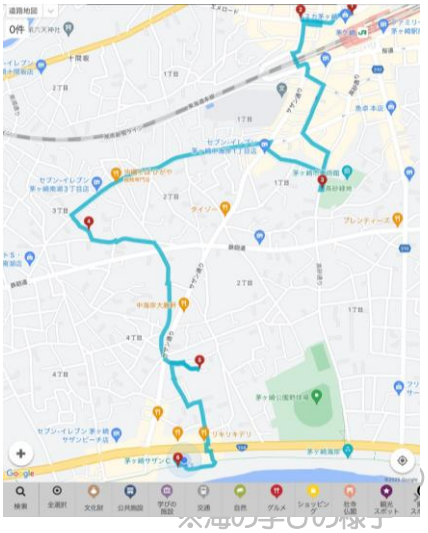
※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■まち歩きアプリ「てくてく探偵茅ヶ崎」

【開催日時】2025 年３月 12 日（水）公開
【開催場所】茅ケ崎駅北口等市内６か所をポイントとして設定
【参加者数】随時参加
【実施内容・目的】

●茅ヶ崎市博物館のまち歩きアプリ「てくてく探偵茅ヶ崎」について、展示会の構成要素に即して茅ヶ崎市域の南側（海側）を中心に６か所のポイントとそれに関するクイズを設定し、展示内容を具体的な地域のなかでより身近に理解してもらえることを目指した。

●アプリ内で位置情報に応じて表示されるクイズを解き、すべて回るとコンプリートの記念スタンプを獲得できる。クイズについては、展示内容に関連し、添田唖蝉坊の妻、川上音二郎・貞奴の「萬松園」、茅ヶ崎館と小津安二郎、山田耕筰と「赤とんぼ」、明治時代の海水浴などを設定した。



企画展のなかで紹介した人物、事象について、それぞれゆかりの場所をポイントとして設置し、実際の地域のなかで、近代の茅ヶ崎における音楽や海水浴の歴史を身近に理解してもらえるよう設定し、２０２５年３月１２日（水）より公開した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

今回の事業は、湘南や茅ヶ崎における海水浴やサーフィンの歩み、海にまつわる音楽の歴史をたどる展示を行うことで、茅ヶ崎とその海に対する愛着を抱いてもらえる機会を創出することを目指した。本特別展では、他機関や個人より資料を借用して展示内容を充実させることができた結果、本市所有の文化財のみでは語り切れない湘南の海の文化を紹介することができた。特に、戦前期の海水浴に焦点を当ててその関連資料を展示したが、アンケートの感想としても、一番印象に残ったものとして、日本最古級のサーフボードや板子、戦前期のテント、明治時代後期の水着、昭和初期の海水浴場におけるグライダーの写真などが挙げられており、それらの実物を中心とする資料によってテーマの内容に説得力をもたせることができた。展示に際し、具体的なエピソードや場所を交えて解説することに留意した。来場者からは、「海から文化が始まっている」、「海はいろいろな文化の源である」、「むかしの人の海の使い方が今と同じようなものもあればちがっているのもあり興味深かったです」などの声もあり、それぞれに「海の学び」を深めてもらえたと考えられる。

3．主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．大磯町郷土資料館	資料借用（戦前期の海水浴関連資料）
2．東京家政大学博物館	資料借用（明治時代後期の海水浴着）
3．茅ヶ崎館	資料借用（サーフボード）
4．公益財団法人 松竹大谷図書館	資料借用（川上音二郎関連資料）
5．県立神奈川近代文学館	資料借用（添田唖蝉坊関連資料）
6．明治学院大学図書館付属遠山一行記念日本近代音楽館	資料借用（山田耕筰自筆楽譜）

4．主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．広報ちがさき	夏の特別展　講演会やギャラリートークも　海と音楽の近代史、2024 年７月１日
2．湘南える	海と音楽の近代史～「湘南サウンド」前夜～、2024 年７月 27 日
3．タウンニュース茅ヶ崎・寒川版	茅ヶ崎市博物館　湘南サウンドを紹介、2024 年８月 23 日
4．タウンニュース茅ヶ崎・寒川版	学芸員のイチ推し！-連載 Vol.23-、2024 年９月 20 日

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。